

重点課題

【課題1】 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。(設問2四) 読むこと(平均正答率35.9%)中心となる文のうち、国際宇宙ステーションでの使われ方は書けているが、面ファスナーのよさが書けていない児童(43.5%)

【課題2】 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて、必要な情報を見付ける。(設問2三) 読むこと(平均正答率43.5%)必要な情報2つのうち、面ファスナーづくりのヒントとなったことは書けているが、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかが書けていない児童(38.2%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】 3年生に出てくる要約の指導の仕方を丁寧に行い、大事な語をとらえる力をつけさせる。チャレンジタイムを活用して、文章の構成について考えたり、条件付きの文章を書かせたりする練習をする。

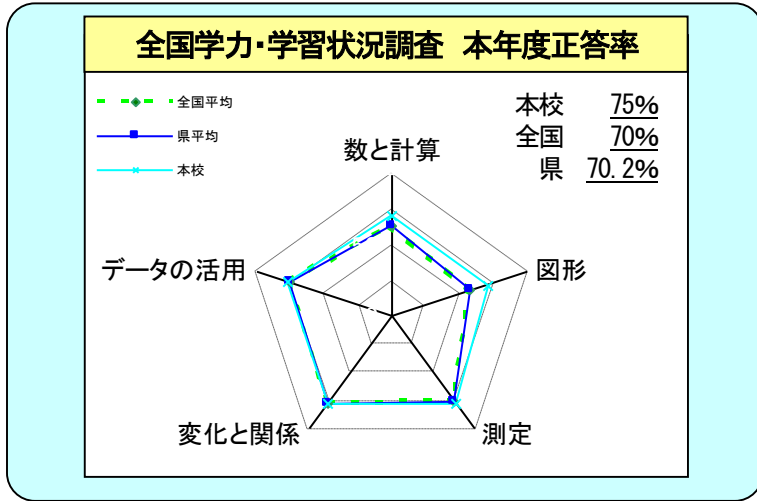
【課題2】 各教科において図や表など、非言語の情報を文章化する時間を設ける。(社会→地図, イラスト, グラフからわかることを書かせる。)(算数→式, 図等を使って, 考えを説明させる。)

※ 小中一貫した取組については、目的に応じて、複数の情報を関連付けたり、条件に合わせて書いたりする指導に重点を置く。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 R3「全国学力」重点課題問題			5年生 R3「全国学力」重点課題問題	5年生 H27「全国学力」	
目標値		60%			70%	70%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 R3「全国学力」重点課題問題			5年生 R3「全国学力」重点課題問題	5年生 H27「全国学力」	
目標値		60%			70%	70%	
実施後数値							

来年度に向けて



重点課題

【課題1】 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。(設問3(4)) データの活用 (平均正答率53.4%) 帯グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選択できていない児童(18.3%) 割合の違いが一番大きい項目を選択しているが、それぞれの割合を記述していない児童(16.0%)

【課題2】 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。(設問1(3)) 変化と関係 (平均正答率54.2%) 示された除法の式が1分間当たりの道のりを求めるための式であることは理解しているが、求めた商を比べたとき、数値が小さい方が速いと捉えている児童(32.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】 必要な情報を分析する時間を設ける。あえて不必要な情報も与え、条件に合うものを選んだり、文章で説明させて解いたりする活動を取り入れる。

【課題2】 「1あたり」という単位量の意味を、図や式と関連させて考えるよう指導する。また、身近な生活の中で活用されているものと関連させ、実感を伴う活動を設定する。

※ 小中一貫した取組については、複数の情報の中から必要な数値を選んで問題を解決させる指導に重点を置く。また、実感を伴う理解となるよう、生活と関連させて指導していく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 R3「全国学力」重点課題問題			5年生 R3「全国学力」重点課題問題	5年生 H30「全国学力」	
目標値		70%			80%	70%	
実施後数値							

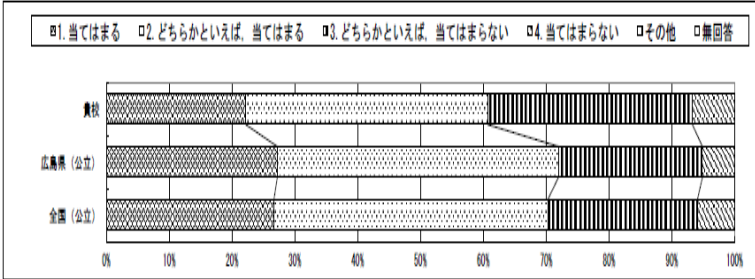
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		6年生 R3「全国学力」重点課題問題			6年生 R3「全国学力」重点課題問題	5年生 R3「全国学力」重点課題問題	
目標値		70%			80%	70%	
実施後数値							

来年度に向けて

質問紙調査（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）（児童生徒学習意識等調査：児童質問紙調査）

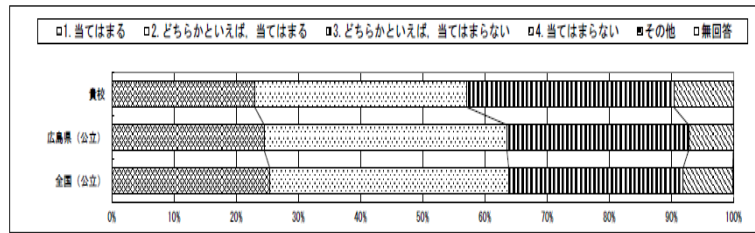
(1) 生活・学習

自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができます。

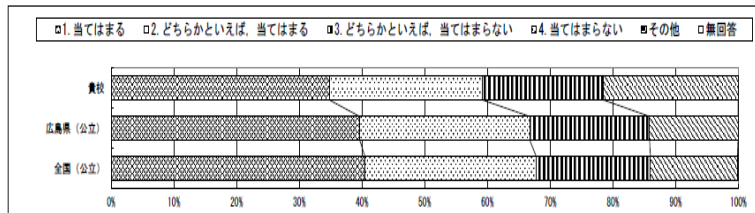


(2) 教科

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしています。



算数が好きです。



	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。」という問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が60.7%で、全国や県と比べて低い。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを伝えることに自信をもたせるために、教師が、言葉で伝えようとしている児童の頑張りを認めたり、ありのままの表現を受け止め、共感的に聞いたりするようにする。また、学校生活のあらゆる場面で、表現したことが伝わったかどうかを、児童間で評価し合う場を積極的に仕組んでいく。 表現方法には「書く」ことも有効な手段であることを伝え、書いて気持ちや考えを伝え合う活動を取り入れていく。 	5	65%	児童アンケート	2月	

	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。」という問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が57.1%で、全国や県と比べて低い。	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって魅力的な言語活動を設定したり、課題提示の仕方を工夫したりすることで、児童が目的や身に付けたい力等について見通しをもつことができるようにするとともに、「～について話したい」「～について聞きたい」という思いをもって学習に取り組めるようにする。 話し合い活動では、何のために、どのような方向に向けて、どのように話し合うのかといったことを、児童に具体的に示すようにする。 	5	65%	児童アンケート	2月	
全国・学習意識等	全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「算数が好きですか。」という問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が59.2%で、全国や県と比べて低い。	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業と、他の学習や日常生活との関連を意識しながら授業を構成していくことで、児童に算数を学ぶことの意義や有用性を実感させられるようにする。 チャレンジタイムの時間に、新しい単元に関わる既習内容の復習を十分に行ったり、家庭学習で予習を取り入れたりすることで、全ての児童が安心して自信をもって授業に参加できるようにする。 	5	65%	児童アンケート	2月	